

平成25年度北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区 : 旭川地区
- 2 研修者氏名 : 荒木豊志 (旭川市立雨紛小学校)
- 3 研修実施日 : 平成25年12月3日 (火)
- 4 研修先 : 東京都八王子市立由木中央小学校
- 5 研修目的 : 児童の主体的思考が光る言語活動を学ぶ
- 6 キーワード : 言語活動, 思考力・判断力の育成, 校内研修



1 はじめに

今回、北海道小学校長会地区活性化支援事業で、道外における先進的な研究推進校の公開研究会に参加することができました。心より深く感謝いたします。

さて、私が参加した八王子市立由木中央小学校は、全学年3学級編制で児童数598名が在籍しています。沿革史を見ますと、明治6年に松枝学校を起源とする歴史と伝統ある学校です。平成21年には文部科学省教育課程指定校、また、平成23年から東京都言語能力向上推進校、平成25年度には、文部科学省学習指導実践協力校として言語活動実践研究に取り組んでいます。



2 由木中央小の研究

(1) 研究主題 文学的文章を読む能力の育成

～児童の主体的思考がきらりと光る言語活動の実践～

(2) 主題設定の理由

本来、国語で養う力は各教科の学習の基本となるものである。国語科で培った力が、日常の読書をはじめ、各教科の学習活動の中できちんと機能しているのかが何よりも大切である。

そこで、単元を貫く言語活動を軸に、いかに読みの主体者としての児童の思考力・判断力を育成していくかという観点に研究のねらいを定め研究主題を設定した。

(3) 研究方法

○研究の構想と進め方の確認

研究授業の方法や協議会のもち方、成果と課題のまとめ方を研究会全体で確認し共通理解をした上で、各学年分科会でどのように取り組むかを検討し、研究授業で実践する。

○年間6回の研究授業と協議会の実施

検討された手だてをもとに、各学年分科会で研究授業を行う。

研究協議会は研究授業を行う学年分科会が提案する授業の視点をもとに、参観者から意見を集約したり、講師の先生から指導助言を受けたりすることによって進め、手だてを検証し、学習指導法の改善向上に努める。

○国語科児童実態アンケートの実施

○成果と課題の確認と研究紀要の作成



3 授業参観から

6学年の『本の帯を作って「自分のお気に入りの椋鳩十作品を紹介しよう!』を参観しました。

登場人物の心情の変化を意識させながら本文を読ませていきたいという指導者の願いをもとに、自分の思いが伝わるように登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えがまとめられるように設定されています。



また、並行読書を学習の柱に据え、本のおもしろさやよさを改めて感じる機会とし、それぞれの読書体験を共有することで、これからの読書活動に向けて刺激し合う機会とするため、前單元までの学習で身に付けてきたストーリー展開全体から物語の特徴を読み取ったり、その楽しさを味わったりする力の活用が図られていました。特に登場人物の相互関係や情景などを具体的な手がかりとして自分のお気に入りを見付け、それを自分の生活体験や読書経験に結び付けたり、友だちとも読みの交流を参考にしたりするなどして、自分なりの考えや根拠を明確に広げながら読みを進める能力を、更に高めていました。

これらのことから、もっと他の作品を読みたいという興味・関心をもつようになり、自分の選んだ「本の帯」作成の意欲につながっていたと思います。

單元を通して、「本の帯」を作ることで自分にとって大事な言葉や文を児童が明確に意識し、必要に応じてそれらを引用しながら、あらすじをまとめる能力が身に付いていくように思われます。

4 講演「単元を貫く言語活動を位置付けた国語科の授業づくり」

(1) 講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 水戸部 修治 氏

(2) 講演概要

① 国語科における言語活動の充実とは

◎ 国語科における言語活動の充実－4つの原則

☆ 本単元で付けたい力を見極める（実生活等で生きる力、年間を見通した指導事項選定）

☆ 付けたい力にぴったりの言語活動を選定（言語活動自体の教材研究が必要）

☆ 言語活動を単元を貫いて位置付ける（言語活動推敲に必要な能力を単元を通して指導）

☆ 児童生徒の「大好き！」「心に響く！」を重視（主体的思考・判断力を活発に）

② 国語科における言語活動の具体的なイメージ

◎ before（「読むこと」の場合）

〈導入〉	〈展開〉	〈発展〉
<ul style="list-style-type: none"> 全文を通読 初発の感想 課題を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を、段落ごとに読み取り、筆者の考えをつかむ。（または） 教材文を場面ごとに読み取り、人物の心情を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめ 楽しく発表

◎ after（「C読むこと」小学校1・2学年「ウ（文学の解釈）「カ（選書）」を重点に指導する単元の一例）

〈導入〉	〈展開〉	〈発展〉
<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ（選書モデル） 読書・学習経験の想起 課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ストーリー展開のおもしろさ、好きな場面や人物の行動を見付けて読む。 本や場面を選んだわけを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ本の好きなどころを紹介する。
<p>シリーズなどの並行読書</p>		

主体的な思考や判断を位置付ける！



5 終わりに

今回の貴重な研修によって、国語科の単元を貫く言語活動の重要性をはじめ、校長として今日的な教育課題に対応する先進的な研修活動のリーダーシップの大切さを改めて実感しました。今後の学校経営に生かしていきたいと考えています。